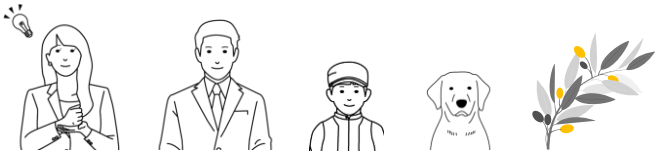
東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science



大学院 Newsletter

2023.11

スクール(学校)ソーシャルワーク シンポジウムの開催と教育課程の紹介

スクール(学校)ソーシャルワークシンポジウム

子どもの声からはじめよう～子どもアドボカシーの理念と実践～

10 月 14 日(土)に、本学酒田キャンパスにて「スクール(学校)ソーシャルワークシンポジウム 子どもの声からはじめよう～子どもアドボカシーの理念と実践～」を開催し、来場とオンラインを合わせて多くの方にご参加いただきました。講師は、白梅学園大学准教授で本学大学院非常勤講師も勤める牧野晶哲氏と、弁護士でソーシャルワーカーである安井飛鳥氏です。

牧野氏からは、山形県内のスクールソーシャルワーカーの現状と課題、今後の展望についてお話しいただきました。

安井氏は、「『子どもアドボカシー』は『権利擁護/人権擁護(Protection＆Advocacy)』という用語とほぼ同義で用いられるようになっている。社会福祉の分野において、Advocacy とは、対象者の声を丁寧に聞くという意味があるが、子どもが対象となると、守る(Protection)という視点が強くなる傾向があるため、子どもの声に耳を傾けることを改めて考える必要がある」と解説し、アドボカシーが機能しにくくなる様々な要因についても説明されました。より良い子どもアドボカシーを行うためのプロセスは、子どもの意見形成・意見表明・意見実現を行き来しながら支援を進めることであり、その過程で子どもとの関係性を構築することが重要であることを、現場での具体的な事例を交えてお話しいただきました。子どもアドボカシーを実践するために必要な心構えを知ることができました。

ミニシンポジウムでは、秋田県内でスクールソーシャルワーカーとして活躍されている鎌田明子さんと、山形県内で高校教員として勤めている後藤真琴さん(本学修士課程１年)から、教育現場の現状などをお話しいただきました。そして、安井氏より子どもの支援のあり方や取り組みの事例についてアドバイスをいただきました。参加者からの質問についても安井氏が回答し、子どもの意見表明の難しさと、子どもが意見を言える環境の整備について考える機会となりました。

大学院で学べる「スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程」

スクールソーシャルワーカーとは、上記シンポジウムでも触れたとおり、全ての子どもが通う学校を基盤とし、自治体や児童相談所など複数の機関と連携して児童・生徒の抱える問題を解決に導く社会福祉の専門職です。

本学大学院の修士課程では、大学院として全国で初めて認定を受け、スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程を設置しています。学際的な知識とスキルを身に付けながら、所定の科目を履修・単位取得した方には課程の修了証が交付されます。修了生は、様々な社会福祉の現場で活躍しています。

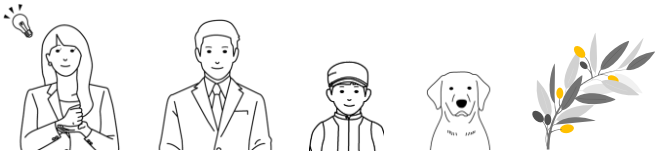
櫻井　敬子さん（2023 年3月修了） 公益学部卒業/スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程　修了生

私は学校現場に関わりたい・子どもたちに寄り添いたい、という思いをずっと抱いていたため、学部で社会福祉士の資格を取得し、さらに大学院に進学し、スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程を受講しました。1 年次に理論を学び、2年次に実習を行いました。修士論文は、論文の執筆と調査を平行したことでスムーズに進まないときもありましたが、同級生や教員に相談しながら書き進めました。修了後は、福祉まちづくりの先進的取り組みをしている社会福祉法人に就職しました。学び・研究、共創のスキルを活かして、地域・社会に貢献できれば、と思っています。

東北公益文科大学 大学院事務室（鶴岡キャンパス）
住所　〒997－0035 山形県鶴岡市馬場町14番1号
電話　0235-29-0555　　メール　gs@koeki-u.ac.jp
ホームページ　https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/

ホームページも
ぜひチェック
ください！

東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science



大学院 Newsletter

2023.11

公益大大学院では地域課題解決に取り組む講義を行っています

大学院プロジェクト科目「プロジェクト a」で
朝日中学校「地域語り合い」ワークショップを行いました

大学院では今年度、「プロジェクト a(パートナーシップに基づく地域課題解決の推進)」という科目を設置しています。プロジェクト a では、地域の具体的な課題解決の推進方法について体験的に学んでおり、実践の場として11月6日(月)に鶴岡市立朝日中学校全校生徒79名と地域住民を対象に「地域語り合い」を開催しました。

当日は、15グループに分かれて、本学院生2名がメインファシリテーターとして進行を行い、「朝日のいいところ」「将来、こうだったらいいな朝日」「朝日と私」をテーマにワークショップを行いました。

各グループには、テーブルファシリテーターとして、院生5名のほかに、朝日地域の方や地域共創コーディネーター修了生の方にもご協力いただきました。はじめは緊張した様子だった中学生たちが活発に意見を出し合えるような雰囲気がつくられ、自分たちが住んでいる朝日地域のことを真剣に考える機会となったようです。

朝日地域の良いところとして、「自然がたくさんある」「歴史的な建物などがある」「優しい人が多い」などがあげられました。一方で「子どもが増えてほしい」「朝日地域にも高校があると良い」「電車が通ってほしい」など、中学生たちは地域の過疎化に対しての危機意識も抱いているように見受けられました。

プロジェクト a 受講生　須田　征士さん(履修証明プログラム「地域共創人材養成プログラム」履修生)

今年度、履修証明プログラムを受講しており、今回の「プロジェクト a」では、春学期に受講した「共創の技法」で学んだファシリテーションを実践でき、とても良い経験になっています。

ワークショップでは、準備期間が短い中、他の履修生と協力し、たくさん意見が出るように工夫してきました。当日は、積極的に、朝日地域のみなさんから参加していただきました。出された意見をみると、中学生たちが地域のことを真剣に考えていることがわかり、若い世代の語り合いの場の大切さを感じることができました。

大学院には実学の場があり、鶴岡市には実践する場があります。履修証明プログラム履修生としてとても有意義な時間を過ごせており、仕事のヒントやアイデアを見つけることができていると感じています。

東北公益文科大学 大学院事務室（鶴岡キャンパス）
住所　〒997－0035 山形県鶴岡市馬場町14番1号
電話　0235-29-0555　メール　gs@koeki-u.ac.jp
ホームページ　https://www.koeki-u.ac.jp/academics/gs/

ホームページも
ぜひチェック
ください！